



目次

生産現場情報：	「白神ねぎ」と水稻、大豆の複合経営で周年型農業を目指す ～農事組合法人 能代グリーンファーム常盤～	P 1～4
営農支援情報：	令和5年産大豆の収穫から選別・調製に向けて	P 5～6
ご 紹 介：	「かづの北限の桃」出荷開始～秋田県知事へ報告	P 7
	3×3バスケットボール「S.L.E.A.G.U.E」で秋田県産あきたこまちをPR！	P 8
	「一花一葉（いっかいちよう）花育講座」に講師として参加しました	P 8
	秋田ノーザンブレッツR.F.Cへ県産農畜産物を贈呈～地元秋田の食で応援！	P 9
	令和5年度「農業体験研修」実施報告	P 10
お 知 ら せ：	京急あきたフェア15周年	P 11

「白神ねぎ」と水稻、大豆の複合経営で周年型農業を目指す ～農事組合法人 能代グリーンファーム常盤～

1. 法人設立の経緯

農事組合法人 能代グリーンファーム常盤は、能代市の北東部に位置し世界遺産白神山地を近くに見る米代川流域の田園地帯で、「白神ねぎ」と水稻、大豆の複合経営を仲間と共に営み周年型農業を目指しています。

法人は、平成19年から行われた常盤地区の基盤整備事業実施に伴い農地集積と法人設立が条件であったことから、地域内のメンバーによる話し合いを経て平成20年1月に設立されました。

法人設立後の平成26年には、地域農業振興のため農作物の栽培技術と品質の向上に向けた取り組みが地域農家の模範となる功績が認められ、県山本地域振興局から最優秀賞を受賞しました。さらに、基盤整備事業を契機に農地集積を進め、水稻生産の省力化を図るとともに、ねぎの本格導入に取り組むなどの実績が優秀と認められ、平成28年度東北農政局土地改良事業地区営農功労者表彰を受賞しています。

設 立：平成20年1月16日

役 員：代表理事 渡邊 博 氏、理事2名、監事2名

従業員：4名、 臨時雇用：10名

所在地：秋田県能代市常盤字町辺112



渡邊代表

経営規模：ねぎ 5ha（園芸メガ団地に参画）

水稻 34ha

大豆 31ha

水稻作付品種：あきたこまち、淡雪こまち、めんこいな
秋田酒こまち、華吹雪

保有施設・機械：作業場100坪、低温貯蔵庫40坪

トラクター5台（72～43PS）

田植機2台（8条植え）

コンバイン2台（6条刈り）

穀類乾燥機

ねぎの移植・管理・収穫・調整の一連の
機械設備



平成28年度東北農政局土地改良事業地区
営農功労者表彰受賞

2. 経営の概要と特色

水稻は、普通移植栽培の他に省力化を目指して設立当初から湛水直播栽培に取り組んでいます。直播栽培は最大10ha程度まで拡大しましたが、収量が安定しなかったことや除草対策が難しかったことなどで2haに減少しています。現在は直播に変わり高密度播種苗（密苗）の面積を拡大しており、収量も直播栽培より高くなり安定してきています。



稲刈り風景



ねぎは以前から常盤地区でも栽培が行われていましたが、県、市、JAが一体となって進めていた県内最初の「園芸メガ団地」の整備計画に参画することを決定し、他の参画者と共に団地全体の目標である販売額一億円を目指すことにしました。この目標は団地構成メンバーと関係機関の努力によって栽培一年目で達成することができ、（農）能代グリーンファーム常盤もその一翼を担いました。

現在は5haの作付けで主な作業は2月の播種作業から始まり、翌年1月末の囲いねぎ出荷作業が終了するまで続くことから、従業員の周年雇用にも繋げられる作業体系になりつつあります。東北日本海側は積雪期間があり農作業が出来なく周年雇用が難しい地帯ですが、能代地区では積雪もやや少ないことから長期間にわたって栽培可能なねぎを取り入れることで年間を通して働くことが可能となっています。



ねぎの根・葉を切り、皮を剥く作業



ねぎの結束作業

長さを揃え
きれいに結束
されたねぎ



土地条件の特徴としては、法人が現在栽培している作物の生育に適した3種類の圃場を所有していることです。ねぎの生育に適した砂混じりで排水の良い圃場、大豆に適した排水の良い農用地開発地域の圃場、古くから水稻栽培を行う地力の高い圃場です。代表は、「この3種類の圃場があることで私たちが栽培する作物の高収量が維持され、経営の安定化につながっている」と話してくれました。

3. 今後の方向等

今後の展望としては、「まずは現在の経営を当面維持していくことが大切だと思っている」と語ってくれました。肥料、農薬、燃油の高騰もあり、農業の先行きがとても不透明なか安定的な経営を営むためには、その時の情勢を見極めて判断していかなければならないと話してくれました。

収入アップを目指して水稻では、サキホコレの作付けを望んでいますが現在はまだ出来ないため、当面は「あきたこまち」の単収向上を目指すこととしています。

また、およそ30年にわたり取り引きのある酒造会社へ販売する酒米の拡大にも取り組みたいと考えています。しかし、こちらも日本酒需要の回復が待たれるところで、少し時間がかかりそうです。



ねぎでは当面、現状維持を考えています。「白神ねぎ」はブランド力が高く、他産地より安定した高い単価で取引されているため、法人としても品質の良いものを安定的に出荷して、ブランド維持に貢献していきたいと考えています。

そのため大幅な面積拡大は考えておらず、現在の雇用者に応じた面積を維持したいと考えており、雇用の増大が図ることができても当面は6ha程度までの拡大と考えています。

法人内では、面積拡大よりもしっかりとした品質の良いものを作り続けていくことを全員で申し合わせています。

今後の課題として、農作業用機械の使用年数が進み更新が近づいているので、「いかにして作業能率と年々高くなっている機械価格との折り合いをつけながら更新していくかが経営上の大きなポイントだ」と話してくれました。過剰投資にならないように、しかも効率化が図られるようにと常に思案しているとのこと。

もう一つの課題は、法人経営の継承だと語ってくれました。代表は、「この法人は、地域からの農地管理を委託されており、その責任がある」とも話します。農村地域はどこも高齢化と慢性的な人手不足が深刻であり、経営を継承するには若い後継者が残っていなければなりません。

代表は「他の会社勤めの従業員のように安定的な報酬が支払える経営内容にしていかなければ課題解決につながらない」と話し、継承がスムーズに行えるようそれに向けて今後も経営努力を重ねていきたいと熱く語ってくれました。



ねぎの調整を行う作業棟



法人の作業場前に立つ渡邊代表

令和5年産大豆の収穫から選別・調製に向けて

本年産大豆の生育期間中は、高温で推移したため、全県の開花盛期は7月30日で平年より1日早くなりました。一方で、7月14日から15日にかけての大雨により、浸水した圃場は、生育の停滞が確認されました。

秋田県農業試験場の作況調査によると6月1日播種のリュウホウで、8月21日の生育は草丈102cm（平年比95%）と平年並より短く、主茎節数は、15.3節（平年差-0.3節）と平年よりやや少なく、分枝数は、2.8本（平年比-0.7本）と平年より少なかったです。

晩播の6月19日播種では、草丈97cm（平年比98%）と平年並、主茎節数は、13.7節（平年差-0.5節）と平年よりやや少なく、分枝数は、3.2本（平年差±0.0本）と平年並でした。



1. 収 穫

収穫は、大豆の枯れ上がり程度、茎や子実の水分状態を見極めて計画的に行うことが重要です。また、コンバイン等の調整や試運転等は事前に済ませるようにしてください。

- ①大豆子実の外観品質は成熟期以降、徐々に低下するため、成熟期の早い圃場から収穫してください。
- ②汚染粒の発生を抑えるため、茎水分50%以下（茎がポキッと折れる頃を目安）で刈り取りを行い、作業は朝露により子実が湿った時間帯を避けてください。
- ③コンバインへの土の掻き込みは汚染粒発生的主要原因であるため、土を掻き込まない仮高にあらかじめ調整してください。

排水性の悪い圃場や滞水し易い箇所は、コンバインの沈下に伴う土の掻き込みが予想されるため、事前に圃場の滞水程度を観察してください。圃場内の大型雑草や落葉の遅い株はあらかじめ抜き取ってください。

- ④脱穀後は風通しの良い場所に置いてください。

乾燥施設等の都合で刈り取り後直ちに乾燥作業を行うことができない場合、保管場所や保管方法に配慮してください。

2. 乾 燥

乾燥前の子実の水分と乾燥条件により、しわ粒や裂皮粒等の被害粒が発生する場合があるので注意してください。また、乾燥温度の目安は次の通りとし、送風温度は30℃以下で室内温度より15℃以上高くないように留意し、乾燥速度は0.4%/h以下とし、子実水分を15%に仕上げてください。

- ①子実水分を18%の場合（室温＋15℃以下）
- ②子実水分を22%の場合（室温＋8℃以下）
- ③子実水分を22%の場合（無加温⇒常温通風）

3. 選別・調製

仕上げ乾燥後、選別機で莢雑物や被害粒等を除去し、整粒歩合の高い高品質な大豆に仕上げてください。

粒径別に用いる篩い目は、大粒は7.9mm、中粒は7.3mm、極小粒は4.9mmを使用してください。

注）記載内容等については、秋田県農林水産部発行「作況ニュース（第7号）」より抜粋掲載しておりますので、詳しくは「作況ニュース（第7号）」を参照してください。



「かづの北限の桃」出荷開始～秋田県知事へ報告

ＪＡかづのや同ＪＡ北限の桃生産部会、ＪＡ全農あきた、ミス・フレッシュ秋田ら関係者が９月５日、秋田県庁を訪れ、佐竹敬久秋田県知事に「かづの北限の桃」の出荷開始を報告しました。

今年は、猛暑が続き、降水量が少なかったことで生育が抑制され、糖度が高く仕上がりました。

ＪＡかづの北限の桃生産部会の中村喜作部会長は「猛暑だったが糖度が高まり桃にとってはいい年となった。たくさんの方に食べて頂きたい」と作柄を報告しました。

ミス・フレッシュ秋田から「かづの北限の桃」を受け取った佐竹知事は「大雨や高温で心配をしていたが安心した。最近はおいしい食を求めて観光する人も増えている。頑張って生産してもらいたい」と話しました。



今年度の集荷量は３４０ト、販売金額は過去最高の１億６，５００万円を見込んでいます。

3×3バスケットボール「S. LEAGUE」で秋田県産あきたこまちをPR！

J A全農あきたは9月2日、秋田市の秋田テルサで開催された3×3バスケットボール「S. LEAGUE」にて、来場者と参加チームへ「秋田県産あきたこまち精米300g」をプレゼントしました。

来場者には、スポーツをしている子どもや健康に気を使われている方が多いほか、試合には首都圏のチームが多数参加し、秋田米のプレゼントを受け、喜びの声が聞かれました。

J A全農あきたは、今後もスポーツを通じた地域活性化と県産農畜産物のPR活動を積極的に展開していきます。



「一花一葉（いっかいちよう）花育講座」に講師として参加しました

令和5年度「一花一葉（いっかいちよう）花育講座」が9月5日、秋田市立寺内小学校で行われました。「一花一葉花育講座」は、子どもたちに花に親しみを持って豊かな心を育んでもらおうと、秋田県内の生花店などで行う「秋田県花きイノベーション推進協議会」が2017年から開催しています。

この日は、J A全農あきた園芸課職員が、花材として使われる「秋田県産ダリア」について講師を担当し、ダリアの特徴や、どういうところで作られているか、栽培の難しい所などを説明しました。ダリアを初めて見る子どもも多く「色がきれいでかわいい」などの感想が聞かれました。



子どもたちは、華やかな「ダリア」1本と「ハラン」という大きい葉を使って「一花一葉」という生け花の手法に挑戦。葉を切ったり、まるめたり工夫しながら思い思いの作品を完成させました。同じ材料を使ってもそれぞれの個性が光る世界にひとつだけの作品となりました。

秋田ノーザンブレッツ R F C へ県産農畜産物を贈呈～地元秋田の食で応援！

J A 全農あきたは9月6日、ジャパンラグビートップイーストリーグの開幕を迎えるラグビーフットボールクラブ「秋田ノーザンブレッツ」を地元秋田の食で応援しようと、「秋田県産あきたこまち」300㌔と「秋田県産豚肉」50㌔を贈呈しました。県産農畜産物の贈呈は昨年に引き続き3回目の実施となりました。

秋田市のスポーツ秋田 P L U S ・ A S P スタジアムで行なわれた贈呈式では、J A 全農あきた 椎川浩副本部長が「秋田の誇るお米と豚肉で力をつけて、リーグワン昇格を目指し頑張ってください！」と激励し、同クラブ共同主将の齋藤健也選手にレプリカの米俵、小林広気選手に豚肉の目録を手渡したほか、ミスあきたこまちから古屋亮太ゼネラルマネージャーへ花束が贈られました。



贈呈を受け齋藤選手は「いつも秋田のおいしい食に支えられている。お米と豚肉を食べてパワーアップし、活躍する姿を見せられるように頑張りたい」と意気込みを話しました。J A グループ秋田・J A 全農あきたはユニホームスポンサーとして、今シーズンも秋田ノーザンブレッツ R F C を応援します！



令和5年度「農業体験研修」実施報告

J A全農あきたでは、平成24年度から職員の農業体験研修を行っています。この研修は、農業体験をつうじて職員同士のコミュニケーションを深めることや、農作業経験のない職員も研修に参加し、農業の大変さや厳しさを実感することによって今後の事業推進に役立てることを目的に実施しています。



【参加した職員からの感想】

◎除草作業では「三角ホー」という道具を使用して作業しました。初めて使用して慣れるまで力の加減が難しかったですが効率よく除草ができました。

◎機械でネギの皮をむいて、何本かを束にして段ボールに詰める作業をしていました。自分がスーパーで買って食べるネギが、どのように出荷されているか確認することができました。

◎夏の農作業の8割近くが雑草との闘いと聞いたことがあります。炎天下の草取り作業の大変さが身にしました。この作業なくして丸々と太った美味しい野菜の収穫はできない。農家の方々に感謝です。

◎業務内容的に事務所内での業務が多く外に出る機会が少ないので、今後も参加できるときは積極的に参加していきたい。

あしんを羽ばたく方に——京急グループ

秋田の美味しいお米を
ご賞味あれ！



秋田県産あきたこまち「あきたecoらいず」をはじめ、京急沿線で秋田の“おいしい”を楽しもう！

10/9(日)より発売スタート!
あきたecoらいず専用 オリジナルお弁当・おにぎり
あきたecoらいず専用オリジナルお弁当・おにぎり
あきたecoらいず専用オリジナルお弁当・おにぎり
あきたecoらいず専用オリジナルお弁当・おにぎり

10.9月祝より発売!
併せて好評いただいている「けいりんオリジナルパッケージ」に
加え、京急ストア創立90周年を記念したオリジナルパッケージは、
準備して発売いたします。

大好評につき今年も販売!!
「京秋の夢」
純米吟醸酒(720ml)
純米大吟醸酒(720ml)
純米大吟醸酒(720ml)

商品を買って当てよう
秋田・京急
プレゼントキャンペーン
京急ストア・もともともオンライン(一部店舗除く)にて
あきたecoらいずを購入すると、秋田の特産品や
商品券が当たるチャンスです!
さらに今年はオリジナルおにぎり・おにぎりも購入すると、
15周年記念賞品が当たるチャンス!

クイズに答えて当てよう!
秋田・京急
元気を届け
クイズキャンペーン
10月1日(日)午後10:00~11月5日(日)午後11:59まで
新米1袋分や秋田牛ローストビーフなどが当たります!

主幹: 京急電鉄・京急グループ各社 JAグループ秋田・JA全農あきた 協賛: 秋田県 秋田県農業振興公社 秋田県農業振興公社
「京急あきたフェア2023」の開催に当たっては、京急グループ各社、JAグループ秋田、JA全農あきた、秋田県、秋田県農業振興公社、秋田県農業振興公社の協賛により開催いたします。
お問い合わせ先: 京急グループ各社 秋田県農業振興公社 秋田県農業振興公社
「京急あきたフェア2023」の開催に当たっては、京急グループ各社、JAグループ秋田、JA全農あきた、秋田県、秋田県農業振興公社、秋田県農業振興公社の協賛により開催いたします。
お問い合わせ先: 京急グループ各社 秋田県農業振興公社 秋田県農業振興公社

くわしくは公式ホームページで!
京急 検索
<https://www.keikyu.co.jp/>



Za・あぐりふおーむ
Zennoh-akita agriculture+reform
JA全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふおーむ
第44号 令和5年10月5日発行
編集・発行 JA全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207の24 018-880-1011